

会議録【全文筆記】

会議名称	令和6年度 第3回米沢市総合計画審議会																																																							
開催日時	令和6年11月8日（金） 午後1時30分～午後4時																																																							
開催場所	置賜総合文化センター																																																							
出席者	<table border="0"> <thead> <tr> <th></th><th>（委員等氏名）</th><th>（所属団体等）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>会長</td><td>野々村美宗</td><td>山形大学工学部 副学部長</td></tr> <tr> <td>会長代理</td><td>田中明子</td><td>米沢商工会議所 事務局長兼総務企画部長</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>伊藤広幸</td><td>米沢市内高等学校校長会 会長</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>伊藤優子</td><td>株式会社ニューメディア 取締役米沢センター長</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>岩崎令子</td><td>米沢観光コンベンション協会 副会長</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>大和田浩子</td><td>山形県立米沢栄養大学健康栄養学部 学部長</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>加藤公一</td><td>米沢市芸術文化協会 副会長</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>川野敬太郎</td><td>米沢青年会議所 特別常任理事</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>川村麻耶</td><td>団体職員</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>小関洋子</td><td>米沢市青少年育成市民会議 副会長</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>小山克成</td><td>米沢市小中学校校長会</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>須貝容子</td><td>米沢市保育会 副会長</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>清野雅好</td><td>米沢市社会福祉協議会 地域支援課長</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>土田良雄</td><td>米沢市スポーツ協会 会長</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>平山博志</td><td>山形県自主防災アドバイザー</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>松田智博</td><td>米沢市商店街連盟 理事長</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>我妻康次</td><td>米沢市コミュニティセンター館長会 会長</td></tr> </tbody> </table>			（委員等氏名）	（所属団体等）	会長	野々村美宗	山形大学工学部 副学部長	会長代理	田中明子	米沢商工会議所 事務局長兼総務企画部長	委員	伊藤広幸	米沢市内高等学校校長会 会長	委員	伊藤優子	株式会社ニューメディア 取締役米沢センター長	委員	岩崎令子	米沢観光コンベンション協会 副会長	委員	大和田浩子	山形県立米沢栄養大学健康栄養学部 学部長	委員	加藤公一	米沢市芸術文化協会 副会長	委員	川野敬太郎	米沢青年会議所 特別常任理事	委員	川村麻耶	団体職員	委員	小関洋子	米沢市青少年育成市民会議 副会長	委員	小山克成	米沢市小中学校校長会	委員	須貝容子	米沢市保育会 副会長	委員	清野雅好	米沢市社会福祉協議会 地域支援課長	委員	土田良雄	米沢市スポーツ協会 会長	委員	平山博志	山形県自主防災アドバイザー	委員	松田智博	米沢市商店街連盟 理事長	委員	我妻康次	米沢市コミュニティセンター館長会 会長
	（委員等氏名）	（所属団体等）																																																						
会長	野々村美宗	山形大学工学部 副学部長																																																						
会長代理	田中明子	米沢商工会議所 事務局長兼総務企画部長																																																						
委員	伊藤広幸	米沢市内高等学校校長会 会長																																																						
委員	伊藤優子	株式会社ニューメディア 取締役米沢センター長																																																						
委員	岩崎令子	米沢観光コンベンション協会 副会長																																																						
委員	大和田浩子	山形県立米沢栄養大学健康栄養学部 学部長																																																						
委員	加藤公一	米沢市芸術文化協会 副会長																																																						
委員	川野敬太郎	米沢青年会議所 特別常任理事																																																						
委員	川村麻耶	団体職員																																																						
委員	小関洋子	米沢市青少年育成市民会議 副会長																																																						
委員	小山克成	米沢市小中学校校長会																																																						
委員	須貝容子	米沢市保育会 副会長																																																						
委員	清野雅好	米沢市社会福祉協議会 地域支援課長																																																						
委員	土田良雄	米沢市スポーツ協会 会長																																																						
委員	平山博志	山形県自主防災アドバイザー																																																						
委員	松田智博	米沢市商店街連盟 理事長																																																						
委員	我妻康次	米沢市コミュニティセンター館長会 会長																																																						
欠席者	<table border="0"> <tbody> <tr> <td>委員</td><td>斎藤美綺</td><td>株式会社nitorito 取締役 デザイナー</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>佐々木隆行</td><td>JA 山形おきたま米沢地区青年部 委員長</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>島倉邦広</td><td>米沢市電子機器機械工業振興協議会 会長</td></tr> </tbody> </table>		委員	斎藤美綺	株式会社nitorito 取締役 デザイナー	委員	佐々木隆行	JA 山形おきたま米沢地区青年部 委員長	委員	島倉邦広	米沢市電子機器機械工業振興協議会 会長																																													
委員	斎藤美綺	株式会社nitorito 取締役 デザイナー																																																						
委員	佐々木隆行	JA 山形おきたま米沢地区青年部 委員長																																																						
委員	島倉邦広	米沢市電子機器機械工業振興協議会 会長																																																						
事務局	市長、総務部長、企画調整部長、市民環境部長、健康福祉部長、産業部長、建設部長、会計管理者、上下水道部長、市立病院事務局長、教育管理部長、教育指導部長、議会事務局長、政策企画課長、政策企画課長補佐兼未来都市推進室長兼総合計画策定室長、政策企画課企画調整主査、政策企画課主任、政策企画課主事																																																							
会議次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 議事 (1) 新総合計画の策定に向けたアンケートの結果について (2) アンケート等の結果を受けた基本構想（将来像）の方向性について (3) アンケート等の結果を受けた基本構想（施策分野）の方向性について 5 閉会																																																							
会議資料	(1) 次第 (2) 名簿 (3) 新総合計画の策定に向けたアンケートの結果について……………資料1 (4) アンケート等の結果を受けた基本構想の方向性について……………資料2 (5) 新総合計画の策定に向けたアンケート結果報告書……………参考資料1 (6) 第2回総合計画審議会での主な意見……………参考資料2																																																							

会議内容

【1 開会】

省略

【2 会長あいさつ】

改めまして、こんにちは。会長を仰せつかっております野々村です。今回の審議会は3回目です。前々回、前回と市から現状を説明いただきました。今回は3回目ということで、いよいよ米沢の10年後の理想像をどんなところに置き、どこに向かっていくかを皆さんと検討していきたいところです。活発な意見をいただき、より良い提案をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【3 市長あいさつ】

改めて、委員の皆様こんにちは。野々村会長はじめ委員の皆様には、総合計画審議会において様々な議論を重ねていただき、今日もお時間をいただきお礼申し上げます。今日はアンケート結果を踏まえた議論が進められると伺っています。調査なくして政策なしでありますから、調査結果を踏まえて活発な議論をいただければと思います。その議論の前に、市としてどういうことを考え、どんな思いで市政に臨んでいるのか、現状と私の思いも委員の皆さんに申し上げたいと思い、お時間をいただいて説明させていただきます。

(資料に基づき説明)

【4 議事】

(1)新総合計画の策定に向けたアンケートの結果について

(資料1に基づき説明)

委員 回答数が大学生 24.9%と低いのは何か理由があるのでしょうか。あと、こういうアンケートで回収率など実績があれば教えていただきたいです。

事務局 現行計画の策定時にも大学生にアンケート調査をしており、回答率は29.7%でした。今回、若干下がっていますが、大学生はなかなか回答率が上がりません。大学にも大体この程度になるのではないかと事前に予想いただいていたいました。

委員 こういうアンケートに対しては意外と興味があるのかという気がしているもので、なぜこんなに低いのかと思ったのですが、分かりました。

会長 先ほどの市長の話でも、幸福度を重要視するということだったと理解しています。今回もその辺りを重点的に言っていたのではないかと思います。データの説明はあったのですが、結局のところ、今の米沢市民はどんな時に幸福を感じるか、あるいは幸福度に一番影響ある因子はこれではないかということを教えてください。

事務局 幸福度ですが、幸福度の高い層と低い層の差が大きい項目は、今後の施策の中で何かしら取り組む必要があると考えているところです。日常の買い物や外出、自分の健康に至るまで、幅広いところで幸福度との関連が出ているように感じますので、今後取り組む必要があると考えております。

委員 私も満足度・幸福度のところで思っていることがあります。高校生・大学生の平均が令和元年度と比べて上がっています。幸福度は国による調査、全国の暮らしやすさランキングなどデータが出ていますが、非常に危ないというか、一体どこまでということがあります。個人の置かれ

事務局	ている状況、家庭環境、職場環境、経済状態、自分の健康、精神的な安定など、いろいろなことが作用してのことだと思います。コロナがあったにも関わらず、高校生・大学生の数値が上がったのはどういうことなのでしょう。 詳細な分析は難しいかと考えています。誤差もあるかもしれませんが、幸福度が最近話題にもなり、興味を持つ方もいらっしゃるのかということもあり、それぞれが幸福度を考える機会が増えて、上がっているのかと思います。
会長	若年層の幸福度は大事なポイントだと思うので、今後の解析の中で検討いただければうれしいです。
委員	私は高校生を毎日見っていますが、米沢が好きという子が多くなってきていると思います。遠くに行けないということもあり、遠くに行くことが怖いとか一人暮らしできないとか、昔だったら東京に行って楽しいことをしたいということがありましたが、それがなくなってきています。推し活というものがありますが、昔なら東京に住まなければ推し活はできなかったと思いますが、今の高校生は普通に東京に行って推し活をします。市内の生徒ですら東京、大阪に普通に行けます。ここに住んでいても、東京に住まなければできなかった推し活ができる、そういう理由があって上がっているのかもしれないです。
委員 事務局	アンケート内容は前回とまるっきり同じ内容なのでしょうか。 施策の分野に関しては基本的に同じものを踏襲しています。時系列で進捗状況を見たいものもありますので、同じような項目もありますが、市民としての誇りなどを新規で追加したものもあります。
(2) アンケート等の結果を受けた基本構想（将来像）の方向性について （資料2に基づき説明）	
委員	私は教育分野が一番なのかと思っています。米沢に生まれ育ったことの誇りとありますが、ここが一番なのかと思っています。前回の審議会でも話したように、これからの米沢をつくっていくのは、今の小中学生であることを考えると、そのこどもたちが米沢を好きにならなければならない、そして、米沢を支える気持ちをつくっていかなければならないと思っています。最終的に米沢に戻りたいとか、ここで生活したい、ここが大好き、ここが故郷だと言えるこどもたちをつくっていくための教育をやっていかなければならないと思っています。先ほどのアンケートにもありましたが、年齢が上がるにつれ、誇りが下がってきていることは気になっていったところです。大人になっても米沢を愛する人材をつくっていききたいと思っています。
委員	小中学校の給食費完全無償化をしていただいておりますが、とても良いことだと思っています。保育園を考えた時、数年前から3歳以上のお子さんの保育料は無償化されましたが、0、1、2歳はあります。副食費は3歳以上のお子さんでも別にいただいているのですが、いただけないお子さんもいます。国基準でいろいろな条件があり、低所得、第3子以降などは免除という形です。それに加え、米沢市独自の第3子以降は免除されています。その他の子は各園で集金していただいています。そのため、例えば5人のお子さんがいても、第2子までは副食費がかかりますので、全員完全無償化を進めていただきたいと思います。先ほどの

委員	アンケートで幸福度がありましたが、普通がすごく多かったと思います。普通は大切だと思います。気づかない幸せがあるのかなと感じたところです。もう一つ、こどもたちが遊ぶ場所があることはあるのですが、屋内が手狭で、屋外は猿や熊が心配で行けないところがありますので、その点も考慮いただければと思います。 将来像の方向性にありますが、福祉分野の楽しく過ごせる空間や人の集まる場という部分になります。今、高齢者でも高校生・大学生でも、地域活動をする集いの場を作っているところです。我々が把握しているところで、米沢市内で 100 か所ぐらいあります。集いの場と言ってもコミュニティセンターや公民館といった限られた建物であります。他県の地域コミュニティが活性化しているところは、空き家を活用しているところが多く、10 年の中で空き家の活用も検討いただきたいです。また、ボランティア活動を PR しておりますが、米沢は県内でも高校生・大学生のボランティアが活発だと言われています。特に、除雪ボランティアは、冬季間の体力作りも兼ねて大学生も協力いただいているという体制で、県内でも一番若い世代が協力いただいています。そこが米沢の良さかと思います。また、最近、九里学園高校と米沢中央高校を主にして、学校圏内の 15 分から 20 分圏内のところで高校生が高齢者を見守る、高校生見守り隊を進めているところです。我々の働きかけも重要ですが、若い世代が地域社会で活躍できる場の開拓を市と協力して進めていきたいと思っています。
委員	子どもたちが誇りを持ち、のびのび笑顔で暮らせること、また、スポーツの盛んなまち、はるか昔に米沢工業高校が甲子園に行った時の盛り上がりは最高のものでした。スポーツの力は本当に大きなものがあります。今回、公徳会が国民スポーツ大会でベスト 4 まで行きました。団体だと 50 点なので、団体でそこまでいくのは県にすごく効果が出ました。運営者側のスポーツ協会にとっては、施設が普通ではなくなってきました。プールしかり、野球場しかり、施設としては運営しやすい競技場です。プールは県内で一番広く、国体をしただけのことはありますが、裸足では歩けません。野球場は外野の芝ががたがたです。今回、花火大会で喜んでいましたが、スコアボードに電光掲示板があつたらという声もお聞きしました。電光掲示板は必要だし、文化会館もそうです。そういったことも考えて、他の市町村も研究していただきたいです。新庄は LED 照明に変え、酒田は全天候型の野球場にするなどしています。是が非でもこどもたちが喜んでスポーツに取り組めると良いです。
委員	災害が少ないことが米沢の一つの長所にもなっています。その代わり災害がないので危機意識が非常に低いことも当然かと考えております。各地の災害を見てみますと、災害が起きてからこんなことは初めてだという話をされる方もたくさんいます。米沢もいつ何が起きるか分からない、災害が少ないながらもその時のために備えておきましょうということで、いろいろ活動しています。少子高齢化も進み、町内の役員の担い手も少なく、その中で自主防災組織を活性化しようと言っても難しいのではないかと、各地区で集まって勉強会をしながら、少しずつレベルアップしていこうとしてきたのが東部地区です。14、5 年前から毎年取り組み、防災組織の結成率が 30%から 95%までなったという実績から見ると、各地区でも連合会などを作って勉強会を重ねることにより、地区全

体でレベルアップを図っていく形にできればと考えております。防災に対する備えをしなければならないことは皆様感じておられますが、実際にどんなことをすれば良いのかということになると止まってしまいます。そういう意味で市にも町内の防災組織を支援するような担当を設けていただき、いろいろなアドバイスして、例を示しながら地域でできることに取り組んで災害に備えていく、そういう形にできないかと考えています。全市の防災組織の連絡協議会もあります。山形県でそういうものがないのは米沢市ぐらいだと思います。地区毎に防災組織の連合会のようなものをつくり、全市の組織もつくり、一つの方針の基に勉強会をしていく形にできないものかと考えております。

委員

前回も参加して、アンケートで記憶に残っている部分があったので、先ほどアンケート内容は同じかお聞きしました。高校生・大学生の考え方が変わってきたと感じました。前回、アミューズメント施設を作ってくれと言う意見が高校生・大学生からかなりありました。今回は住んでいる皆さんがこのことをもっと知ろうという内容に変わってきています。教育の賜物だと感じたので聞かせていただきました。その反面、元々住んでいる方は変わらない、前回、屋内遊戯施設がほしいというものも結構あったのですが、それは作っていただいたので反映されていますが、雪、道路などは出るのだなと感じたので質問させていただきました。常々思っていることは、昨日も米商連の理事と商工課の皆さんと意見交換して感じたのですが、所詮人だと思うのです。建物、インフラが良い、自然もあるといっても、それを使うのは人であるというのが私の結論です。どう人にやさしくできる環境を作るのか、どう人と人を結び付けるための手段、手法を使うのかが最終的なところになると思っています。市長からもあったように、間違いなく人口は減っていきます。人口が減ったから良い面も出てくるので、必ずしもマイナスではないと思いますが、発展というキーワードで考えるとマイナスです。自然環境などを考えればプラスかもしれません。その辺のバランスも今後考えながら進んでいきたいと思っています。我々小売業者にはどんどん店舗を閉めている業者もあります。ということは、市民の皆さんに買い物の楽しみを伝えるのが難しい時代になっています。交通インフラ、バス、デマンドタクシーなどを含めて活用する方法がないか、今後協力していきたいと考えています。人にやさしいまちづくりをお願いしたいと思います。

委員

コミュニティセンターは今までは生涯学習の場面で大きな務めがあったのですが、今は地域活性化の拠点としての活動も求められるようになりました。それぞれのコミュニティセンターが地域活性化に貢献するためには、どのようにしなければいけないか、いろいろと模索しながら地域の方とやっております。市からの指導もあり、いわゆるまちづくり専門家のアドバイザーの指導を受けながら、地域づくりについてやりましょうという時に、どうしても今までだと年齢が65～70歳ぐらいです。地域にとっては重要な戦力ですが、将来を考えるにはそのメンバーだけではまずいということで、30、40代の方にもプロジェクトに入っていただく形で進めています。若い方は時間がなくて、会議だけでも調整が難しいです。その中でも12人ほどの若い人が入った形でプロジェクトを進めています。米沢の将来のあるべき姿を考えた時に、それぞれのコミュニ

委員

ティ機能が十分に発揮されて地域活性化がなされていることを狙いながら、若い人の意見を基に若い人が運営部隊になる形で進めているところです。もう一つは地域活性化で常に考えるのは、共助の精神です。アンケートにもありますが、共助の精神の重要性、どのようにやるかは難しいですが、共助の精神が必要であるという認識を市民が持つことが大事かと思います。互いに支え合う除雪活動というのがあり、南原地区では30 町内のうちの3 町内が自主組織を作って、こどもたちの通学路が一般向けの除雪では狭くなるため、それを広げる部分を市にお願いするのではなく、地元で進めてくれています。そういった小さな活動をやりながら、共助の大切さをみんなが共有してくれることがいろいろな活動をする上で重要な点だと思っています。今までの話にありましたように、人口減少が進んでいることを考えると、若い人に米沢に残っていただき、県外の人でも米沢に来たいというものを作っていく必要があると思っています。考えなければならないのは、米沢には八幡原工業団地、オフィス・アルカディアという素晴らしい工業団地があります。ただ、一個人からみたら魅力がある企業かどうか、その辺りが問題かと思います。市長の話にありましたが、新しい産業団地に挑戦するということでは若者に魅力があり、あの会社に行ってみたいと思う企業を誘致することが大事かと思います。若い子が少しでも米沢にいたいと感じてくれて、米沢の活性化、地域の活性化を進めていただければと感じます。

アンケート結果の中で、結論は人を増やすにはどうすれば良いかということだと思いますが、そのためには結婚させる、こどもを産ませるということだと思います。こどもを増やすことは難しいと思っています。それに対する肯定感を持ってない人がほとんどだと思います。結婚し、こどもを産んだら少しお金を差し上げることぐらいしかなく、今の段階で私は案がありません。であれば、2つ方法があり、外部から人をもってくる、あとは今いる人を出さない、出ても戻すということだと思います。市長がおっしゃる東京の人をもってくるというのは良いと思います。市長のアイデアに加えると、空き家がたくさんあるので、思い切って市役所に寄付、市で買い取ってそれを差し上げるというような大胆な発想がないと、引っ張ってくることはできないと思います。未来への投資だと思います。空き家を持っている人は困っているので、そういうものがあると良いと思います。今いる人に対しては、米沢の教育は素晴らしく、こどもたちも誇りを持っていると思います。例えば、米沢商業高校で言えば、地元に残っている人がたくさんいます。工業高校も地元に残っている人はたくさんいます。失礼ですが、出ていく人は進学校の人です。商工会議所の協力を得て、「WAKU WAKU WORK」というものを行っています。地域の企業の方に来ていただき、どういう仕事をしているかを見せてもらいます。そうすることにより、間違いなく地元に残る確率が高まることが分かります。それを進学校でもすれば、たとえ就職しなくても、大学に行って戻ってくる確率が増えると思います。であれば、思い切って「WAKU WAKU WORK」を中学生にさせてみると、彼らが高校に行き、大学に行った後、戻ってくる確率が高まると思います。先ほどの発表ですが、部長はこういう活動を通して市役所の職員になりたいと言っています。米短に行って2年後に市役所職員になりたいと言っています。それは経験したからです。経験をすれば、出ていく人も出ていかな

委員	い、戻ってくる確率が高まるというのが私の案です。 ケーブルテレビという商売柄もあり、デジタル庁の話聞く機会があります。前回会議でも話しましたが、デジタル庁のウェルビーイング指標は、幸福度を感じている人の増減がグラフ化されているので、市政運営に利用いただければと思います。デジタル庁の動画を見ていて気になったキーワードがあります。「幸せを感じる人が増えれば地方創生は成功する」とおっしゃっていましたが、本当にそうだと思います。幸福度の向上がキーワードになると思いました。ただ、幸せを感じるためには心身の健康、経済的な豊かさ、交通の利便性、防災など、総じて暮らしやすさを向上することが幸福度に直結するとアンケートからも分かっています。これからの将来を見据えた時、幸福度をどうやって高めるのか、幸せだと感じている人を増やしていくことが一つのキーワードになると感じています。人口が減少したり、出生率がすごく減るということは衝撃的な数値でした。しかし、市長がおっしゃったとおり、どんどん町がコンパクトになっていくが、それゆえに地方にチャンスがあるというところで将来明るいと感じました。まちはコンパクトになっていくが、行政サービスが低下することなく維持できる、その中で幸福度を感じる人が増えていくところが、10年後目指していくところかなと感じています。サービスが低下しないようにするために、市の職員も減っていくのでデジタル化、DX化が必要になると思います。人をいかに使わないでというか、ChatGPTの話もありましたが、DXを使って人を使わないでも行政サービスをするということをやりながら、幸福度を高めるのが必要なのではないかと思っています。
会長	ウェルビーイングを指標にしていくことは良いと思います。指標を何にするかは大事だと思います。もともとシカゴ大学で出された指標で慶応の前野先生などが出していらっしゃいます。そういうものも市の中に入れていくと良いかと思いました。
委員	市長の話がとてもよく、やっと話を聞かせていただいたと思っております。その中で、3つの柱ということで、子育て・教育、産業、暮らしやすい米沢ということでウェルビーイング、これが一番幸福を感じるのかなと思っています。将来像の方向性として、観光コンベンション協会では、歴史や伝統を重んじながら柔軟に変化し、積極的にチャレンジできるまちということで、歴史的資源を活用しながら持続可能な観光のまちづくりをしていくことが重要と思っています。観光客を増やしていくことが重要で、まちの中の空き家は買い取っていただきながら、コミュニケーションの場であったり、そこの場を緑にしていくことで、幸福度が増すのではないかと考えております。
委員	将来のあるべき姿の健康長寿のまちについてです。健康長寿は人々がいきいき暮らす活力の源であります。人々は健康であれば、より活動的になり、自己実現が図られ、その人たちが増えることで米沢のまちの活力が増します。それにより、活力ある持続可能な社会が実現されるのではないかと思います。そういったポジティブな発想により、10年後の健康長寿のまち米沢を形作ってほしいと思います。健康意識が高い人は具体的な健康情報を発信すれば、主体的に自ら生活を改善することができます。ですが、健康意識が低い人、無関心な人はそうはいきません。今後の健康長寿社会の実現に向けて必要な施策は、この無関心層へ

のアプローチが重要だと思います。既に米沢市では、よねざわ健康マイレージなど素晴らしい事業も取り組まれ、成果も挙げていると思いますが、さらに 10 年後を見据え、本人が無理なく健康な行動をとれるような、自然に健康になれる食環境づくりの視点からの取組もプラスしていくことが必要だと思います。

委員

最大の課題は人口減少だと思います。私は教職 37 年間ずっと思っていたのは、たとえ米沢を離れても、米沢のことを思い続けることができるこどもたちを育てなければという思いでやってきました。そう言うほど簡単ではなく、皆さんから出たいろいろなことがあると思いますが、私はまちなかをもっと整備することが大事ではないかと思っています。私は工学部の近くに住んでいますが、学生街と言えるだろうか米短もそうかもしれませんが、私が親で子どもを連れてきた時に、ここに置いていきたいと思うかなと思います。夜は暗くにぎやかでもないですし、若者はどうやって生活しているのかと思います。卒業したら米沢に残りたいと思うかなと思っています。あと、河川もきれいでありません。マングローブ化しており、防災上も良くないです。観光客が歩いている時にきれいだと思ってもらえるような川、市役所の周りも草が生い茂り、観光客が来たらどう思うかなと思います。美しい城下町米沢にしてもらいたいです。若者が定住したくなるようなまちづくりは大事なのではないかと思います。もう一つ、私は音楽の教員で芸術文化活動に携わってきました。アンケートからも分かるように芸術はそれほど生きる上では必要でもない、専門性が高く、やれる人だけやるような、そういう意識が市民の中にあると思います。私は米沢の文化意識を高めたいと思っていますが、米沢は現段階で単なる余暇として、個人の活動で留まっている地域です。他方に目を向けると、芸術文化によって地域活性化に積極的につなげているところもあり、そういうところとの格差は大きいと思っています。芸文協の役割としては、芸術文化の魅力を市民に伝え、文化意識を高めていくことが重要だと思いますが、これからは芸術文化の持つ力をもっと活用し、芸術文化を通じた地域振興が必要だと思います。そのためにはそこに住む人たちが元気でなければできないと感じています。芸文協として行政等と連携をし、例えば教育、福祉、医療など、我々の生活の身近なものをつなげて働きかけていき、充実させていくことも重要になってくると思います。それでないといつまでも文化意識が低いと言われるし、ホールもちゃんとしたのができないと思っています。最後にもう一点、これはバッシングを受ける発言かもしれませんが、給食の無償化はどうなのかと思っています。ある話を聞きまして、無償化になったので不登校の子どもの親御さんが、お子さんは休んでいるけれどその分払ってくれということで、学校も対応したというような話もありました。単純な問題ではないと思いますが、こんな話もあるということを紹介したくて話しました。

委員

施策分野の方向性にも関わってくるのかと思いますが、まずは皆様の話を私なりに聞きながら、若手の話がどこからでもでてくる気はしておりました。私は今年 38 歳でこれからもここで生き続けるものとしての立場、思いをしっかりと持って青年会議所として参加させていただいておりますが、これからの米沢の責任世代として主体的に考えなければならない、仲間を増やさなければならないと常日頃から思っております。話に

あった花火大会は、完全に青年経済人が集まって立ち上げたもので、なぜ立ち上げたかと言うと、これからの将来の方向性に紐づけて話せると思うのですが、前回の審議会の意見にも書かせていただいたところが、他人任せ、誰かがやってくれるという意識が世代を問わずあります。将来像については、何してくれんなやマインドというか、主体性をもって活動できる人間を増やしていかないと、先はないと思っております。ですので、他人任せ、誰かがやってくれるだろうではなく、我々で、若手だけでなく、米沢市民の皆様が主体性をもって、若手が頑張っているから手伝ってやるかというぐらいで良いのですが、快く理解をいただきながら活動できれば、もっと活動する仲間が増えてくると思っています。施策分野の方向性にも関わってくると思うのですが、様々な資料で「災害が少ない米沢」と書かれています。これに関してはもう言わないほうが良いと思っています。間違いなく米沢でも災害は起きます。地震の活断層もあります。危機意識も煽るのではなく、防災教育という観点が必要になってきます。米沢の売りではありますが、そこにあぐらをかいていないで、災害も少ないし防災教育もしっかりしている米沢となると、移住者も増えると思います。市民と一緒に防災教育に取り組んでいることは、米沢市にとっての付加価値につながってくると思います。その中で子どもたちの教育にも防災教育を含めないといけませんし、小さい子どもを持っている方にとっては、浸水があった時にどう対応するかなどは自助にしか任されておらず、保育分野でも防災は共通点としてあると思っていました。防災は様々な分野に地続きでつながる部分だと思います。地域の集いの場としての防災教育をやっても良いですし、一つ一つの結び付きが間違いなく災害時に必要です。私は社業として防災教育のイベントも開いております。何してくれんなやマインドは有事の際には通用しません。そのマインドを覆すためにまず自助を大事にする、そして共助がないと生活できないということが問題なので、人との結び付きや共助というものが、防災の観点から見てもものすごく大事になってきます。全国的には防災庁ができ、防災・減災の取組は国でやっていくもの、自治体でやっていくものというムーブメントが起きてくると思います。そういった意味でも米沢市は災害が少ないし、防災・減災に力を入れているのは米沢市の価値になります。委員の皆様がおっしゃったことは全て地続きでつながっていて、防災というテーマ一つとってもできると思います。そういった観点で防災というテーマでなくても良いのですが、全てのテーマが地続きでつながっていることを理解しながら、今後の計画を立てていかなければならないと思います。これはSDGsの視点から言っても、どれか一つが取り残されても底上げにはなりません。包括的な底上げも大事で、その観点は今後の計画にも絶対的に必要だと思っています。

委員

今日の方向性について、皆さんどの層に着目するのかというのがバラバラな状態だと思って拝聴していました。皆さんそれぞれ専門家の立場なので、無関心層、今回のアンケートでいう幸福度の低い層をいかに変えるかという委員の方、もしくは教育の分野であれば米商の発表の中でファンを大事にする、これはまさに満足度の高い層をいかに維持するか、そこにアプローチすることが明確だったと思います。今回の提案の中で、米沢市の職員の皆さんがそれぞれの部でどこの層を変えたいのか、

どこの層にアプローチする将来像なのかを見せていただけないかというのが一つ提案です。それによって、幸福度が高い層に対する施策をそれぞれの部から提案するか、むしろ無関心層に向けたほうが良いのではないかという建設的な意見が出るかと思うので、次の提案の時には提示いただきたいと思います。その上で、今回のアンケートの分析だと偶然に起こった可能性があり、つまり、統計的に有意差がない状態です。誰にとっても、ここの数値が上がったことが偶然でなく統計的に有意だと認められているものがないと証明できません。数字のロジックにはまってしまっている気がします。まず、統計的に有意差検定をしていただくと、偶然でなく上がった部分がどこなのかがはっきり出るので、そうすると我々もそこに注目すれば良いとか、有意差はないがこの項目は必要だというような議論ができるので、次回の提案の時に検討していただけると良いと思います。我々も意見が出しやすく短時間で議論ができると思います。

会長

どこの層にアプローチするか、統計解析、エビデンススペースは大事なことだと思うので、次回までに御検討いただければと思います。

委員

私たちは各地区のコミセンを中心に、地区の皆さんとともに子どもたちと関わらせていただいています。常にコミセンの方々と接しておりますと、子どもたちのために一生懸命活動していただいています。地区の方だからこそ、子どもたちにしてあげられることはいっぱいあるのだと思います。私も子どもたちと関わって一つでも思い出を作ってあげよう、あとは米沢っていいなと思ってもらおう、自分たちが地区を育てていくのだとだんだん熱くなっていくような感じがあります。地区はすごく大事だと思います。米沢という大きなものがあり、その中にいろいろ組織がありますが、地区もやはり大事だと思っています。それにより将来あるべき姿が出てきて、コミセンを中心に地域の方々が関わってくることが重要だと思います。これからその辺を重視してくださればと思います。

委員

アンケート結果をお聞きして、米沢は良いところがたくさんあって分散しているのかと思います。それが故に問うた時に本当の米沢の良さに気づいていない市民の方が多くて、普通という回答が多かったのかなとも思ったところです。令和に入って前半は、コロナで非常に停滞した時期が続き、商工会議所でも非常に苦慮している事業所が多く、廃業や後継者の方がないなど、今でもいろいろなところに大きな影響を及ぼしています。そんな中で加藤会頭から令和6年度は好循環への転換というキーワードをあげていただき、まずは大変な状況を好循環に転換するように、我々役員も職員も一丸となり頑張っていこうということで様々な支援を行わせていただいております。そのような中で市長より、米沢市も好循環をキーワードにさせていただいて、これからさらに米沢を良くしていきたいという思いがとても伝わってきました。全ての項目が好循環に転ずることは難しいと思いますが、将来のあるべき姿で雇用と経済が循環ということも書いていただいています。好循環が一つのキーワードになり、米沢市のあるべき姿だと個人的には思います。会員事業所の現状をいうと、最近インボイス、定額減税など大きい企業は対応できてもそれに対応できない企業も多く、苦慮している事業所が多いという状況です。先ほど「WAKU WAKU WORK」の話がありましたが、昨年、今年

と、「WAKU WAKU WORK」で市内の企業を知り、そこに就職したという高校生が知っているだけで4名いらっしゃいます。地味な施策ですが、毎年継続して地域の企業を知っていただくことが大事だと思っております。そうした企業を商工会議所で支えていくという意味では、米沢市と両輪となって施策を進めていかなければならないと思っております。好循環というところを一つのキーワードとして提案したいと思っております。

会長

最後に私から一言加えたいと思っております。いろいろと課題はあるのですが、10年間の構想ですので長い視点で提案をしたいと思っております。課題がある中で、強みをどうやって活かしていくかということです。先ほどのアンケートでも、米沢牛などはすごく強いことなのです。食関係の強さ、災害関係の話、あと私の立場から申し上げますと大学が3つある都市はなかなかないなど、強みを活かした施策の提案につなげられればと思っております。

(3) アンケート等の結果を受けた基本構想（施策分野）の方向性について
(資料2に基づき説明)

会長

これから検討していき、次回協議するということでよろしいでしょうか。それでは、今日の議題は以上です。ご意見やご質問がございましたら、事務局までお寄せください。

【5 閉会】
省略